

ワイドな登録

殺虫剤

アディオオン[®]乳剤

だいたいの 害虫防除に!!

登録作物

70種
以上



**マメハンミョウにも
使用できます!!**

マメハンミョウ (コウチュウ目ツチハンミョウ科)

成虫は体長15ミリ程度で夏に発生する。主にだいず等のマメ科を食害する。体液に毒成分が含まれており、皮膚につくと、炎症を起こすこともある。



適用害虫と使用方法(抜粋)

2024年6月現在の登録内容(太字は2024年5月29日適用拡大)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	総使用回数*	使用方法
だいず	アブラムシ類、カメムシ類、ウコンノメイガ、ツメクサガ、フタスジヒメハムシ、マメシクイガ、マメハシヨウ	3,000	100～300	収穫7日前まで	3回以内	散布
	アブラムシ類、カメムシ類、マメシクイガ	24	0.8			無人航空機による散布
あずき	アズキノメイガ	2,000	100～300	収穫14日前まで	3回以内	散布
	アブラムシ類	2,000～3,000				
さやいんげん	カメムシ類	3,000		収穫7日前まで		
豆類 （未成熟、但し、えだまめ、さやいんげん、さやえんどう、未成熟そらまめを除く）	アザミウマ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類、ウラナミシジミ、アズキノメイガ、マメシクイガ					
未成熟そらまめ						
さやえんどう	ヨトウムシ類、ナモグリバエ、ウラナミシジミ			収穫前日まで		
えだまめ	アザミウマ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類、ウラナミシジミ、アズキノメイガ、マメシクイガ、ウコンノメイガ、ツメクサガ、フタスジヒメハムシ、マメハシヨウ					

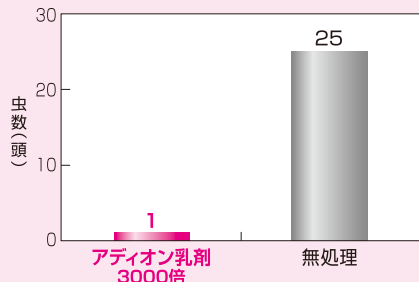
※その他多くの作物に登録があります。詳しくは製品ページをご確認ください。



*印は本剤およびベルメトリンを含む農業の総使用回数

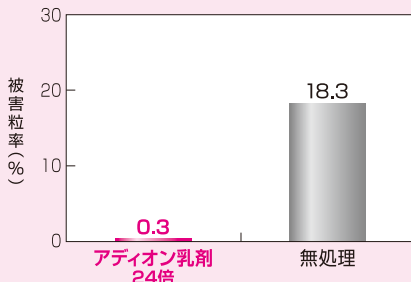
試験成績

◆だいず/マメハシヨウ
(2015年 山形県農業総合研究センター)



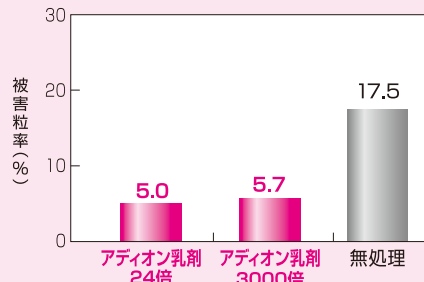
発生状況:多発生 区制・面積:1区20株(1.5m×2m)2連制
処理日:7月22日
調査方法:7月27日に放虫した株を抜き取り、室内に置き、ネット袋内に生息する成虫数を調査した。

◆だいず/マメシクイガ
(2006年 青森県植物防疫協会)



発生状況:多発生 散布機器:無人ヘリコプター
処理日:8月25日、9月1日
調査方法:10月4日に各区3地点、1地点20茎を抜き取り乾燥後、被害粒数を調査した。

◆だいず/カメムシ類
(2022年 福井県植物防疫協会)



発生状況:多発生 散布機器:24倍…無人マルチローター 3000倍…地上散布
処理日:8月22日、9月9日
調査方法:10月12日に各区3地点、1地点10株の全莢から子実を取り出し、被害粒数を調査した。

⚠ 使用上の注意事項(抜粋)

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ってください。
 - ①散布は各散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - ②散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③散布中薬液の漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ④特定の農薬(混用可能が確認されているもの)を除いて原則として他の農薬との混用は行わないでください。
 - ⑤作業終了後は次の項目を守ってください。
 - (a)使用後の空の容器は放置せず、適切に処理してください。
 - (b)使用残りの薬液は必ず安全な場所に責任者をさめて保管してください。
 - (c)機体散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に被害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 原液は眼に対して刺激性があるので、薬液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は、農業用マスク、手袋などを着用してください。
- 薬液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。

- 本剤による中毒の治療法としては、動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効であると報告されています。
- 火気を避け、直射日光の当たらない低温な場所に密栓して保管してください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
 - ③関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 室に長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、付近の葉に付着するおそれのある場所では使用しないでください。
- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

06R6F24A16:ZS

2024年6月作成

農薬・肥料に関する
総合情報サイト【i-農力】や
各種SNSはこちら



住友化学

〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号

お客様相談室 0570-058-669

(または ☎ 03-6630-3322)